



舟渡小だより

令和8年度 6月号

令和8年6月1日

板橋区立舟渡小学校
校長 相澤 紀夫

志村五中・舟渡小 響き合う学びのエリア

運動会で学んだこと

教務主幹 中島 進介

爽やかな五月の風が校庭を吹き抜け、木々の緑が一段と鮮やかさを増す季節となりました。先月開催いたしました運動会では、早朝よりたくさんの保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただき、温かいご声援を賜りましたことに、心より厚く御礼申し上げます。

今年の運動会は、「赤い火山 白い氷山 一致団結最後まであきらめずにつき進め オー！」をスローガンに掲げました。子どもたちが互いに認め合い、最後まで持てる力を出し切り、それを讃え合う素晴らしい運動会になりました。



今年の運動会で私の胸に特に強く残っているのは、徒競走に臨むある男子児童の姿です。昨年度の徒競走では、ゴール直前で転倒してしまい、悔し涙を流しながらゴールした児童が、今年は見事に完走し、満面の笑顔を見せてくれました。ゴールしたあとに、同じ組で走った仲間と笑顔で健闘を讃え合う姿に、私は心を打たれました。

最後まで諦めずに走り抜ける姿や、表現運動で仲間と心をつなげて踊りきったきらきらとした表情。勝って喜び、負けて悔しがる姿のどれもが、子どもたちが本気で取り組んだからこそ生まれた、輝かしい成長の証でした。この「全力を尽くした」という確かな手応えと自信、そして深めた絆は、これからの学校生活を支える大きな糧となるに違いありません。



また、今年の運動会も多くの志村五中生がボランティアとして駆けつけてくれました。用具の出し入れや競技の補助、片付けなど、きびきびと動く中学生の姿は舟っ子たちのよき手本となりました。かつての卒業生たちがこうして母校を支えてくれる姿に、地域が一体となった「小中連携」の確かな成果を実感し、喜びと感謝の念に堪えません。

私たち教職員にとっても、学び多き運動会でした。限られた時間の中で子どもたちの力を最大限に引き出すための指導の工夫や、チームとして臨機応変に対応する力。これら教職員の奮闘も、子どもたちの笑顔や保護者・地域の皆様のご声援によって、すべて報われた思いです。



学校、家庭、そして地域が一つの大きな家族のように繋がりが、子どもたちを支え合えたことこそが、今年の運動会の大きな成果です。ここで培った絆を生かし、教職員一同、さらに歩みを進めてまいります。今後とも、本校の教育活動への変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。